

# 令和元年度事業計画書

## I 経営理念

### —— 満足を超えた感動を全ての人に ——

私たちは、「組合員の営農と生活を守る」農業協同組合として、地域農業の維持・発展に総力を結集し真剣に取り組めます。

そして、私たちが行う JA 総合事業を通じて、ふれあう全ての人々に対して、満足を超えた「感動」を実感していただくことで、この地域に組合員の輪を広げます。

## II ビジョン

JA の自己改革の実施と農業者の所得増大を最大目標に、私たち役職員が一丸となり、組合員とともに目指したい 3 つの将来の姿を描き、最終年度となる第 6 次中期経営計画を実践し、引き続き下記事項の実現に向け取り組めます。

### 地域農業の発展 ～日本一柿産地の維持拡大と儲かる農業の実現～

「日本一の柿産地の維持拡大」と「周年供給型産地づくり」に取り組むとともに、優良農地の維持と農業技術の普及や担い手の育成支援、販売力強化、生産コストの低減などによる生産基盤の維持対策を進め、農業所得向上への挑戦と次世代の担い手にとって魅力のある「力強い農業」を目指します。

### 豊かな地域社会 ～顔のみえる出向く体制による地域社会とのつながり強化～

出向く体制を強化し、顔のみえるサービスを提供することで組合員・地域住民とのつながりを再構築いたします。また、組合員・地域住民が積極的に参加・参画できるくらしの活動や高齢者支援を進めることで、JA のファンづくりに取り組むとともに、豊かで暮らしやすい地域社会づくりに貢献します。

### 信頼される JA ～組織再編・機構改革による経営基盤の強化～

総合事業の展開を通じて、ニーズに対応したサービスを提供し、地域の生活インフラを支える機能を発揮します。また、組合員・地域とともに歩む JA を念頭に、厳しい環境のなかでも組合員に質の高いサービスを提供できるよう組織再編・機構改革に取り組み、満足を超えた感動を実感していただくことで、信頼される JA を目指します。

## Ⅹ 当JAにおける自己改革の取り組み

### 【農業所得の向上に関すること】

平成30年度に取り組んだこと	令和元年度に取り組むこと
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 刀根早生柿をアメリカ向けに10t、30年度より柿の輸出が解禁となったオーストラリアに向け1tを含む計60tの柿を輸出しました。</li> <li>● 台湾向けに7tの桃を輸出しました。</li> <li>● 個性化商品として、先行投資事業により資材を供給した紀の川柿の推進や、甘熟富有柿、冷蔵富有柿に取り組みました。</li> <li>● あんぽ柿入りヨーグルトをダノンジャパン株式会社で商品化し、全国で販売を行いました。</li> <li>● 農薬・肥料はもちろんのこと、期間と品目を定め、仕入先との交渉を強化し、生産資材等の特別推奨品目を決定し、価格低減を実施して販売強化に努めました。</li> <li>● ふるさと納税謝礼品として新たに恋野米を提案し採用されました。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 産地アピールのため、紀の川柿・甘熟富有柿・冷蔵富有柿など地域特性を生かした個性化商品の出荷拡大に取り組み、組合員の所得を確保します。</li> <li>● 果物を周年供給できる産地とするため、適地適作に基づき改植・新植を推進します。また、近年減少している柑橘についても有利販売するため「味一みかん」の拡大に取り組みます。</li> <li>● 農産物の海外輸出拡大に取り組みます。</li> <li>● 多様化する消費者に向けて、インターネットを利用した様々な販売窓口の拡充に取り組みます。</li> <li>● ふるさと納税謝礼品を各市町に提案し拡充を行います。</li> <li>● 営農部と販売部が統合し生産から販売まで一貫して取り組むことで、1円でも多く生産者の手取りを確保することに取り組みます。</li> </ul>

### 【農業生産の拡大に関すること】

平成30年度に取り組んだこと	令和元年度に取り組むこと
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 紀北川上早生の栽培面積 38ha 紀州てまり（甘柿新品種）432本導入等出荷時期を平準化するため、刀根早生柿の改植推進を実施しました。</li> <li>● 果樹類の周年出荷のため、落葉果樹・常緑果樹苗木の供給により若返り改植・新植を推進しました。</li> <li>● 水稻の高温障害対策として、新品種（はるみ）の栽培試験を管内2園地で行い、品質調査を実施しました。</li> <li>● 農業経営事業で「担い手塾」を塾生23人で開催・就農前の研修生3名を受け入れ、担い手育成に取り組みました。</li> <li>● 農地中間管理事業（76件13.4ha）、農地貸借事業（13件2.3ha）の成約により、担い手への農地集積・優良農地の荒廃防止に努めました。</li> <li>● 共同利用施設（ライスセンター）の利用拡大のために、補助事業を利用した条件整備、省力化技術・軽量農産物の導入しました。</li> <li>● マルガク選果場の選果機（カラーセンサー・カメラ周辺機器等）の機器の入替工事を実施しました。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 高品質果実を長期平準出荷が出来るよう品種構成の見直しをするとともに、「紀州てまり」の産地育成に取り組みます。</li> <li>● JA独自の補助事業を利用し、野菜・花き・果樹類の新規品目導入、生産拡大に取り組みと共に、深刻化する鳥獣害対策にも取り組みます。</li> <li>● 水稻の等級比率向上の為優良品種（きぬむすめ・にこまる）の推進、高温障害に強い優良極早生新品種（はるみ）の栽培試験を引き続き継続して導入検討を実施します。</li> <li>● 生産資材の銘柄集約や物量の結集によるメリットの還元に加え、低コスト資材の普及などによる生産資材コストの低減を柱に、「1円でも安く良い資材を供給する」を第一に取り組みます。</li> <li>● やっちゃん広場や量販店のインショップ型契約販売への出荷者・出荷量増加のため、需要の高い野菜・花き類の生産拡大を推進します。</li> </ul>

【地域の活性化に関すること】

平成30年度に取り組んだこと	令和元年度に取り組むこと
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 地域の将来を担う管内小・中学校を対象に、交通安全啓発および健全育成のため、「交通安全ポスター・書道コンクール」と「学童軟式野球大会」を実施しました。（書道 1,431点 ポスター 482点 軟式野球 14チーム）</li> <li>● JAまつり（地域感謝祭）を開催し、地元中学校、高等学校のクラブによる発表戦隊ショー等で約 2,000 人の方に来場いただきました。</li> <li>● 支店別懇談会・認定農業者との意見交換会等で貴重なご意見をいただきました。</li> <li>● 夏休み寺子屋・こども園の夏祭り参加や作品展示を行いました。</li> <li>● 地域・農業活性化促進助成を活用し地域貢献活動に取り組みました（JA 地域感謝祭、アンパンマンショーの開催、かつらぎ町へ消防司令車を寄贈・食彩フェスタ等）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 地域の将来を担う次世代層（管内小・中学校）を対象とした文化・スポーツ支援活動の実施、ポスターコンクール等による交通マナーの啓発活動、交通事故対策に向けた支援活動を引き続き実施します。</li> <li>● 地域・農業活性化促進助成を有効に活用し、地域貢献活動を積極的に行います。</li> <li>● JAまつり（地域感謝祭）を開催します。</li> <li>● 支店別懇談会・認定農業者との意見交換会を実施します。</li> <li>● 地域貢献活動の全部署継続と 1 支店 1 協同活動の実施に取り組みます。</li> </ul>